みんなの広場

新春意見特集 成人の日に思う

成人の日がやって来ます。今年も約五千三百人の若者が新しく成人の仲間入りを果たします。新しい人生の門出に彼らは何を思い、また大人たちは彼らに何を期待するのでしょうか。七人の方々から頂いた投稿を意見特集として紹介します。

新しい人生の門出に成人たちの思いは？（昨年の成人式から）

苦労は買ってもせよ

佐藤祐司（小針が丘・59歳）

大学生の入学試験や入社式に母親が付添っていく光景が報道される。現代の青年は過保護で、自立心が乏しく、自主性に欠けている。

成年の式として、古くから貴族、武家では十五歳ころ元服の儀式をあげた。また、幕末の志士・橋本左内は十五歳で「啓発録」を著したが、その第一項に、「稚心を去る」とある。昔は十五歳で成年とみなされたが、現在の青年はどうであろうか。

大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます、という趣旨で設けられたのが、成人の日である。

現今の青年は物質的に恵まれすぎて、ひよわな人間になっている。古来から「人は苦艱に生き、安逸に死す」「若いときの苦労は買ってでもせよ」と言う。

古今東西の偉人英雄と称される人物は、そのほとんど全部が困窮の逆境に生育し克服している。艱難辛苦を進んで求め、これに打ち勝ち、二十一世紀を背負うに足る偉大な人間に成長してほしい。

凧

青木章（女池6・46歳）

お正月がくると、子供のころ、寒風にもめげず元気で遊んだ凧上げを思い出す。

凧と言えばこんな話がある。夫婦愛細やかなアメリカのマーシャル元帥夫妻の話である。

ある時、元帥夫妻が丘に立って凧の上がるのを見ていた。夫人がクスクス笑うので元帥が理由をきくと、夫人は空を指さして「凧のしっぽです」と言う。「しっぽがどうかしたかい？」と聞くと、「あのしっぽは凧の行くところどこにでもついて行きますもの」と夫人は答えた。

その瞬間、元帥には夫人の言わんとすることが分った。「そうだ！君がいつも私についているように」。そしてさらにつけ加えた。「あのしっぽは重過ぎても軽過ぎてもいけない。重過ぎれば凧は上がらない。軽過ぎれば凧は風に吹き飛ばされてしまうだろう」と。

確かに凧としっぽの関係は夫婦相助け合う美しい姿を表していると言えよう。それはまた、人が人として家庭や社会の中で相助け合って生きていく心構えにも通ずるものがあるように思う。

人を強風にさらしてその苦労をぼんやり見ているような「無気力、無関心、無能力」の三無主義者では困る。それは軽過ぎるしっぽである。しかし、自信過剰で他人を押しのけてでも我意を通すのもまた困る。それは重過ぎるしっぽである。

今、成人を迎える若人諸君、重過ぎもせず、軽過ぎもしないしっぽになってもらいたい。そして、しっぽからやがて大きな凧になって新潟の空、日本の空、世界の大空に飛翔してもらいたい。

たくさんのあなたたちに

渡部知江（五十嵐中島・49歳）

五年前、十年前、十五年前…。さかのぼればその折々の時代を背景とした二十歳の青年群があった。社会、家庭、教育など諸事に多少の問題はあったにせよ、彼らには一応の平和と豊かさが保証されていた。でも。

さらにさかのぼれば、二十歳の若者は確かにいたものの〝成人式〟というものはなく、しかも〝二十歳〟という節目を迎えることさえできずに生命を散らせてしまった時代があった。

その折の〝成人式〟は徴兵検査であり、その〝青春〟はお国のためとして海に空に。（もっとも、その時代、戦いに巻き込まれたのは青年たちだけではなかったけれど…）

祝詞、餞詞、記念の品などをあなたたちはたくさん受ける。各々、とても大切なものに違いない。でも私は、あなたたちに、かつて二十歳という節目すら迎えられずに散ってしまった〝青春〟があったことを思い起こし、華やいだ式典とは別に〝あの哀しみと犠牲と誤りを決して繰り返させない〟と考え、何らかの形で行動する一人になってほしいと思っている。今だから。

二十歳、おめでとう。

すれっからしのリアリストになるな

はげのこ（五十嵐二・20歳）

先日、ある人が「すれっからしのリアリストになるな」という言葉を私に教えてくれた。頭を殴られたようだった。

まさに自分がそれだったからだ。現実主義とかあきらめとか聞いた風なことを言って腕組みをしているだけ。自分では何もせず、真剣な人をバカにするような態度―。俗世を超越したかのようなそれは確かにちょっと目にはカッコイイ。喜ぶことも怒ることもせず、考えることすらしない。

しかし、それで何がどうなるんだろう。虚しさがくるだけではないか。さらに悪いことにはその虚しさみたいなものを看板にしている自分。「すれっからし」という言葉を前にして何ともこっけいな姿だ。

「素直な人間でありたい」「感動を失わない人間でありたい」…使い古された言葉が新鮮に見えてくる。

二十歳を迎える今こそ、そんな人間でありたいと思う。

素晴らしき成人

鈴木静子（上木戸・57歳）

昨秋の晴れた一日、心許す友、数人と五頭山麓の滝までの散策を試みました。紅葉にはまだ早いとはいえ、木々の鮮やかな色香に酔いながら、十年以前の記憶をたどり、声高に話しつつ歩いて行きました。

ものの一時間近くも歩いてさすがに疲れを覚え始めたのに気づいて、私たちはいっそう声高になっていました。道標がないことに気づいたりで、スピードも鈍りかけていたころです。

ずいぶん以前に行き交った一人の青年が飛ぶような急ぎ足で、戻って来ました。

そして、「おばさんたち、滝へ行かれるんでしょ。さきほどちらと耳にしたんですが。今行ってみたら、ずいぶん通り越しておられますよ。ここから二十分くらい戻って左の方に注意して行かれると、道が分かれています。じゃ、気をつけて」と、もう足は下りかけて飛ぶようにして走り去って行きました。

お陰様で目的を果たし感謝いっぱいで村杉のバス停に戻って来ることができました。

その大勢の中に、スケッチブックを片手にしたあの青年を見つけた時のうれしさ。お礼の言葉やらなにやら、一挙にお友達になって……。「実は、今日で僕は成人になりました。そのしるしに時間をやりくって五頭山頂から故郷を眺め、下手ながらスケッチしたんです」とその青年は話してくれました。

私たちは彼の素晴らしい行動とさわやかさに涙さえ浮かべて、輝くような青年の顔に見入ったことでした。

成人式に思う

木村佑治（竹尾3・63歳）

今年も成人式が近づいて来た。私ども大正ひと桁には徴兵検査の代わりくらいにしか受け止められない。成人式を迎える人たちも「うれしさも中くらいなり…」くらいなのか。想像しても思いつかない。

昔は兵隊に行くまでに手に職をつけ、一人前になることを一つの目標とした。今は高卒は就職して二年目、短大卒は職探し、大学生はあと二年、成人式とはその年ごろの年代である。

私も保護司として、この年ごろの対象者によく面接する。今までは悪いことをしても、A、B君としか報ぜられなかったが、今後は何の太郎兵衛と新聞、テレビに載る。気をつけねばと決り文句的な話をすることがある。少年時代から責任を持たされる青年時代への移行時期と心得る。

今は、ほんのひと握りの非行・暴走する青少年の行動が若者のイメージダウンにつながっている。気の毒でならない。

世は今、不景気のどん底。仕事をしている若人も、それを求める若人も大変な時である。転んでも起きよ。

20歳になって

青木薫（明石1・20歳）

二十回目の誕生日には特別な感慨もなかった。が、その半月後、スピード違反で警官に年を尋ねられ、法的にもすべて責任を負わなくてはいけないのだと、改めて感じた。

大学に入ったとき、精神的な面でも親に甘えずに生きてみようと思った。現在、いくらか自分が考えていたような方向に進んではいるものの、思ったより自立が容易でないことを思い知らされている。

今大学で勉強していることは、自分が将来実現してみたいと思っている夢への第一歩であるが、自分の夢に不安を抱くこともある。しかし一方では、どんな難癖がついたとしても純粋に自分のやりたいと思っていることを実現させようと頑張って試みるのがいいのだと、自分にいいきかせている。

今後、何が起こり、何が自分を変え、成長させるのかわからないが、その時の自分にしかできないやり方でそれなりに精いっぱい生きてみたいと思う。

「成人の日のつどい」案内

日時　一月十五日午前十時半～正午（受け付けは十時から）
会場　市体育館
対象　昭和三十七年四月二日～三十八年四月一日生まれの人
内容　式典とつどい（手話通訳が付きます）

※招待状は年賀状で発送しましたが、案内状がなくても該当者は参加できます。

◙お祝い募金にご協力を

新潟市緑と花の協会では、「成人の日のつどい」会場において、成人のお祝いを記念して、新潟の緑化のための募金活動を行います。つどいに参加される新成人の皆さんの温かいご協力をお願いします。

◙献血にもご協力下さい

献血は午前九時半から。

詩吟基礎講座

—朗読を基調とした詩吟の初歩—

日時　1月19日～2月23日毎水曜日午後6時半～8時半（計6回）
会場　中地区公民館（古川町）
参加費　1,000円（テキスト代含む）
講師　鶴巻碧水（県吟詠連盟教師）
申し込み　睦月吟詠会（☎45―7456）、または開講日に会場へ

交通事故相談

時間　午前9時～午後4時（土曜日は正午まで）
場所　市民相談室（中央公民館1階）

1・3級販売士検定試験

試験日　2月16日
受験料　1級…3,000円　3級…2,000円
申し込み　1月26日までに商工会議所専門指導センター（☎23―6271）へ

書道教室受講生募集

日時　毎週月曜日午前9時半～正午
会場　沼垂上町日の出集会場
講師　古山桂石
運営費　月2,500円
申し込み　直接、または電話で睦会老人クラブ阿部歌子（沼垂東2丁目6―2、☎46―1453）へ

小型船舶操縦士

国家試験のお知らせ

試験日　2月1日　身体検査…午前9時半～、筆記試験…1・2級（午前10時半～）、4級（午後1時～）
会場　プラザー新潟ビル（新潟駅前）
その他　実技試験日・場所は学科合格発表後にお知らせします。
問い合わせ　日本モーターボート協会新潟事務所（☎83―1996）へ

木目込み人形立雛教室

手づくりのお雛さま（真多呂人形）を作ってみませんか！

日時　1月25日～2月15日毎火曜日午前10時～正午（計4回）
会場　鳥屋野地区公民館
定員　30人　**費用**　8,500円（材料費）
申し込み　1月14日までに住所、氏名、年齢、電話番号を明記して、返信用封筒（60円切手貼付）を同封のうえ鳥屋野地区公民館（〒950 新和113―30）へ

古典教室会員募集

日時　毎月第3日曜日午後7時～9時（1月16日～）
会場　木戸コミュニティーセンター
内容　万葉集　**会費**　月700円
申し込み　電話で新日本婦人の会新潟支部（昼☎28―7732、夜☎74―7528）へ

ママの一日スキー教室

日時　2月1日午前8時半陸上競技場集合（午前9時出発、日帰り）
行き先　胎内スキー場（黒川村）
定員　50人（先着順）
参加費　2,500円（貸切りバス代、スポ傷保険料含む）※貸スキーあり（料金別）
申し込み　1月10日から参加費を添えて、市体育課（一番堀通り3、市陸上競技場内）へ。電話受け付けはしません。

省エネルギー巡回技術指導

県では、中小企業の各種工場を対象に省エネ技術指導を実施しています。ぜひご利用下さい。

申し込み　県商工企画課（☎23―5511内線3265）、または県工業技術センター（☎44―9168）へ